

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Jan.2011

1

No.603



特集

猪苗代の
新しい「子ども教育」
始まります

「せーの、よいしょー」

お正月を前に、猪苗代保育所の子どもたちがおもちつきに挑戦しました。「よいしょー」という大きな掛け声に後押しされて、きねの重たさを忘れたかのような笑顔です。

(12月3日猪苗代保育所、関連 14 ページ)



猪苗代町長

津金

もとお
要雄

明けましておめでとうございます。
新しい年の門出に当たり、日ごろ町政にお寄せいただいておりますご支援、ご協力に対しまして、ここに深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、まちづくりの羅針盤である「第六次猪苗代町振興計画」と「過疎地域自立促進計画」に基づいた重点事業を積極的に展開し、町の経済活性化と雇用拡大、定住化促進を図ってきたところがあります。特に、「有機の里構想」を具体化した蕎麦の里宣言による地産地消の推進、優良堆肥製造施設による有機性資源の利活用、「母から子への手紙」による絆づくり事業、食料自給率向上対策事業、また少子高齢化と人口の減少対策として、認定こども園の整備推進、中学生までの医療費の無料化による子育て支援、新規学卒者等就職支援激励金交付事業による雇用の創出、さらには旧雇用促進住宅の取得による定住化促進事業などを実施してまいりました。

また、猪苗代町、磐梯町、北塩原村の3町村で磐梯山の素晴らしい自然の保全と適正な利用に努めるため「磐梯山憲章」を制定しました。

猪苗代湖の水環境対策につきましては、下水道の整備、合併浄化槽の導入支援、環境にやさしい農業の推進など、水質浄化につながる政策を積極的に展開するとともに、湖北岸のヨシ刈り、ごみ撤去作業や水草を回収し堆肥化する活動などに、官民一体となって取り組んでおります。

こうした町民の皆さん一人一人の参加が豊かな猪苗代町を創造するものであり、人も物もお金も地域内で循環する「有機の里構想」、いわゆる循環型地域社会が形づくられたものと考えております。本年は、町民の皆さんと共に「衆知を集める」究極の地方自治の形づくりを進めるとともに、農業と観光、福祉と教育のまちづくりを積極的に推進してまいりますので、ますますのご支援とご協力をお願い申し上げます次第です。

町民の皆さんにとりまして幸多い年でありますよう心からご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。



猪苗代町議会議長

鈴木

たけき
武喜

明けましておめでとうございます。

町議会を代表いたしまして新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆さんにおかれましてはご家族おそろいで、輝かしい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、世界的な異常気象により、猛暑、大干ばつ、ゲリラ豪雨、台風や地震が各地で発生するなど、自然災害が多数発生した1年であったと思います。

わが国の経済においても明るい兆しは見えず、大学生や高校生の就職内定率は依然として厳しい状況にあります。失業率においても悪化が予想されるなど、雇用情勢においても厳しい状況が続くものと思われま

す。しかしながら、国では、円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策を実施するため、①雇用・人材育成②新成長戦略の推進・加速③子育て・医療・介護・福祉などの強化による安心の確保④地域活性化、社会資本整備、中小企業対策などの22年度補正予算を成立させ、経済の低迷からの脱却を図ろうとしています。

本町においても、人口の減少、少子高齢化の加速や増大する行政需要などにより、取り組むべき課題は多岐・多様にわたっております。これらの諸課題を解決するため、議会と行政とが力を合わせ、英知を結集して、町を活性化させていく必要があると強く感じているところでございます。

議会といたしましても、町民の皆さんが安心して暮らせる町づくりの実現に向けて、議員一人一人がさらなる研鑽を重ね、資質の向上に懸命に努力してまいる所存です。また、町民の皆さんの付託に応えるべく、しっかりとした議会の運営と活性化に取り組んでおりますので、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

町民の皆さんの限らない幸せと、穏やかな毎日でありますことを念じまして、新年のごあいさついたします。

年頭のごあいさつ



猪苗代町教育長

土屋

しげのり
重憲

明けましておめでとうございます。
皆さんにおかれましては、お揃いで、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

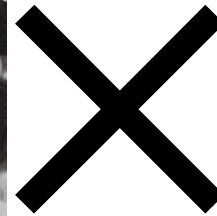
昨年を振り返ると、4月には3回も降雪があり、寒い春が終わると、記録的な猛暑の夏という具合に異常気象に見舞われた年でありました。中でも猛烈な夏の暑さは、方々にさまざまな影響を及ぼしたようです。高冷地の猪苗代の場合、こういう年はかえって米の出来がよく、一等米の割合も高く味もよいとの評判です。

また、2月から3月にかけて開催された冬季オリンピックやインターハイにおける当町出身選手の活躍や11月の市町村対抗ふくしま駅伝での町の部準優勝に輝く大活躍などは記憶に残るところです。さらには、猪苗代、磐梯、北塩原の磐梯山周辺3町村による「磐梯山憲章」の制定や保科正之公生誕400年にかかわる顕彰事業などいろいろありました。

学校関係では、野生生物保護や水質保全活動などで全国レベルの表彰を受けた学校、マーチングバンド演奏や合唱コンクールで東北大会出場を果たした学校などがあり、本町を東北、全国に向けて発信してくれました。また、2月上旬には全国中学校スキー競技大会が本町で開催されます。大勢の選手・役員の皆さんをお迎えしての、大きな大会となります。町民の皆さん、全国からのお客さんのおもてなしと本県選手団への応援をよろしく願います。

昨年度から本格的に取り組んでおります川東地区こども園につきましては、土地取得・造成、基本設計など順調に進捗しております。11月には関係地区において説明会を実施し、ご理解をいただいたところで

す。
今年も良き年であることをお祈りし、教育行政に対する一層のご理解・ご支援・ご指導をお願い申し上げます。



共働きの家庭も増加したこと
から、子育て支援に対するニーズ
はますます高まりました。

こうした中①保護者の就労の
有無で利用する施設が限定され
てしまう②少子化により、幼稚
園と保育所が別々に設置されて
いると子どもの成長に必要な規
模の集団が確保されにくい③子
育てについての不安や負担を感
じている保護者への支援が不足
しているなどは課題として指摘
されていました。

これらの課題を解決するため
国では18年10月から「認定こ
ども園」制度をスタートさせまし
た。

町が置かれている状況

町内でも少子化は急激に進行
しています。1990年には千
人を超えていた0歳～4歳まで
の子どもの数は、2010年
には約半分の550人になりま
した。20年後の2030年には、
約340人にまで減るとい
う試算も出ています。

こうした少子化に加え、「早
朝から夕方までや夏休みなどの
期間に預かり保育をしてほし
い」、「仕事をやめても同じ施設
で預かってほしい」、「子どもに
集団生活を体験させたい」など
保護者のニーズも多様化してい

ます。保護者が働くために保育
所に入所させたいが、保育所が
定員オーバーで、入所待ちの状
態になっているという状況も多
く見られました。

このような状態を解消するた
めにはどうすれば良いのか、町
教育委員会では、幼稚園、保育
所について、有識者らによる検
討委員会を設置し、19年8月か
ら21年9月までの間、検討を重
ねました。

検討の結果、幼稚園を統合し
て保育所と連携した「こども園」
を整備し、幼児教育・保育の充
実を図るとともに、子育てしや
すい環境づくりにも配慮する提
言をまとめ町に提出、こども園
の整備が決定したのです。

こども園になっても、保育所
と幼稚園の位置付けが変わるわ
けではありません。子どもたち
は、年齢によって、0歳児から
2歳児までは幼児保育部門とし
て、3歳児から5歳児までを幼
児教育部門として、保育・教育
を受けます。

幼児の心身の健全な発達を図
るとともに、保護者の子育てを
支援するため「長時間利用（預
かり保育）」も実施することも
園は、幼稚園と保育所のそれぞ
れの良いところを生かしながら
両方の役割を果たすことができ
る施設ということができます。

こども園はどんなところ

こども園は、就学前の子ども
に幼児教育・保育を提供する一
体的な施設です。保護者が働い
ている、いないにかかわらず、
0歳児から5歳児であれば、だ
れでも受け入れ、教育・保育を
します。集団活動や異年齢交流
に必要な子ども集団の規模を守
るとともに待機児童の問題も解

社会環境の変化に対応

急速な少子化の進行や経済情
勢の変化などにより、子育てを
めぐる社会環境は大きく変化し
ました。核家族化が進む一方で、

特集 猪苗代の 新しい「子ども教育」 が始まります

保育所と幼稚園の機能が一つになり、
「こども園（仮称）」が誕生します。
24年4月からのスタートに向け、
整備が始まりました。

子育て支援センター

こども園のもう一つの特徴に子育て支援センターの設置があります。

子育て支援センターは、こども園に通園していない子どもがいる保護者が、通院、看病、冠婚葬祭や私的な理由などによって家庭での保育が困難な時に、子どもを一時的に預けられる施設です。また、子育てに不安を抱える保護者の相談にのったり、親子の集いの場を提供したりす

る場所でもあります。そのほか、地域の子育てについて相談や助言などをし、より良い子育て環境を作るためのサポートをします。

【子育て支援センターの業務内容】

●育児不安などについての相談指導

地域の子育て家庭の保護者や児童（以下「子育て家庭」という）に対する相談指導をすることともに、各種子育てに関する情報の

提供や援助を実施します。そのほか、実施可能な施設では、看護師や保健師が保健に関することなどの相談にのります（写真はイメージです）。

●特別保育事業（一時預かりなど）の積極的実施・普及促進

地域の保育需要に応じた乳児保育や特別保育事業を積極的に実施するとともに、地域における特別保育事業などの普及促進に努めます。



川東地区こども園の概要

町では、長瀬川を挟んで東側に川東地区こども園（仮称）を、西側に川西地区こども園（仮称）を整備する予定です。

川東地区では、24年4月からの開園に向けて、川桁保育所と併設した幼稚園舎の整備に入りました。これは、みどり幼稚園と長瀬幼稚園を統合した施設です。川東地区こども園の整備計画、管理運営計画と今後のこども園整備計画などについてお知らせします。

【整備計画】

○全体の敷地面積

6400平方メートル、（川桁保育所420平方メートル、今回整備する幼稚園舎1980平方メートル）

○全体床面積

1509・69平方メートル（川桁保育所662・48平方メートル・幼稚園舎847・21平方メートル）

○構造

木造一部鉄筋造 平屋建

○今回整備する幼稚園舎

3、4、5歳児3保育室（各年

1保育室）長時間利用室（預かり保育室）、遊戯室、調理室、玄関・ホール・廊下など、トイレ3カ所（多目的トイレ含む）

○子育て支援センター

事務室、一時預かり保育室・相談室（川桁保育所内に設置）

○改築箇所

現在の川桁保育所遊戯室を職員室に改築

【こども園の管理運営計画（案）】

こども園の運営は、幼稚園と保育所のそれぞれの良さを生かすため、管理運営計画を策定し園児の保育に取り組みます。

○保育の年輪

川桁保育所を幼児保育部門と

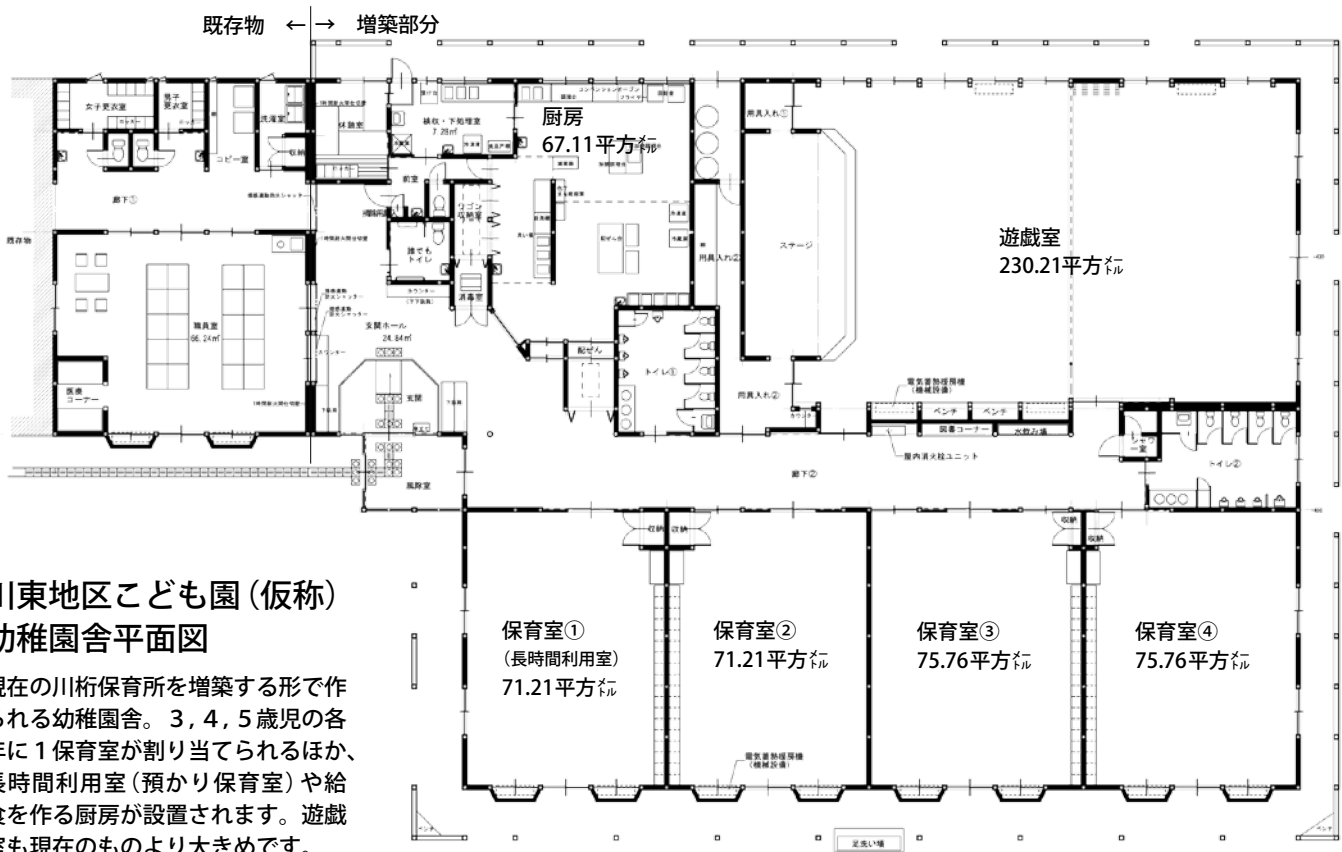
して、0歳児から2歳児を保育します。また、幼稚園舎を幼児教育部門として、3歳児から5歳児を保育します。

○休園日

- ・幼児保育部門 日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月4日）、3月30日～4月1日
- ・幼児教育部門 土・日曜日、祝祭日、長期休業日（夏休み・冬休みなど）

○保育時間

- ・幼児保育部門 通常保育 午前8時30分～午後5時15分（8時間程度） 早朝保育
- ・幼児教育部門



川東地区こども園（仮称）幼稚園舎平面図

現在の川桁保育所を増築する形で作られる幼稚園舎。3、4、5歳児の各年に1保育室が割り当てられるほか、長時間利用室（預かり保育室）や給食を作る厨房が設置されます。遊戯室も現在のものより大きいです。

午前7時30分～午前8時30分 延長保育

午後5時15分～午後6時

・幼児教育部門

短時間利用

午前8時30分～午後2時（4時間程度、午後2時ごろ降園）

早朝保育

午前7時30分～午前8時30分 長時間利用

午後2時～午後6時

（午後4時以降は随時降園可能）

土曜日・長期休業日

午前7時30分～午後6時

○保育料

当分の間（川西地区こども園が開園するまで）は、こども園以外の幼稚園・保育所との均衡を図るため、現在の保育料とします。幼稚園は月5600円、預かり保育は月5000円、保育所は年齢、所得階層による保育料となります。

○給食

0歳児から5歳児の園児全員が完全給食となります。給食費は、保護者の皆さんの負担となります。

○園児の送迎

0歳児から2歳児までは、保護者が送迎します。3歳児から5歳児までは、送迎バスを利用します（ただし、こども園に近い地区は除きます）。

※川西地区こども園の整備

川西地区こども園は、猪苗代、翁島、千里、吾妻幼稚園を統合し、猪苗代保育所と一体となる施設を整備します。整備する場所などについては、現在選定中です。

※現在の幼稚園・保育所の運営時期

みどり幼稚園、長瀬幼稚園と川桁保育所は、川東地区こども園が24年4月に開園しますので、24年3月までとなります。

猪苗代、翁島、千里・吾妻幼稚園と猪苗代保育所は、川西地区こども園が開園するまでの運営となります。

中ノ沢保育所については、川東・川西地区への送迎が距離的に遠く困難なことから、現在そのまま継続しますが、入所する子どもがいる限り存続します。

こども園の整備状況などについては、随時広報紙などで皆さんにお伝えします。

▼問い合わせ先

町教育委員会 教育総務課

☎（62）5677





猪苗代町教育長
土屋 重憲

Tsuchiya Shigenori

町では、21年9月に猪苗代町教育施設適性配置等推進委員会から頂いた提言書によって、町子ども園の整備を行っており、概要については、お読みいただいたとおりですが、こども園の基本的な方向性について確認しておきたいと思っています。

まず、若い保護者たちが、働きながら安心して子どもを産み育てることができる環境をつくること、このことは町の将来に直結する緊急で重要な課題であると考えます。

そのために、もともと福祉施設である保育所と教育施設としての伝統を持つ幼稚園をそれぞれの長所を生かしながら、同施設で一体的に運営する「こども園」の整備に着手したわけでありです。

この園は、一言で言いますと、「保育」の機能と「教育」の営みについて、それぞれの伝統を生かしながら一体化するものです。

町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるためにも、多様化する保護者のニーズに対応した施設をつくるのが、町の未来づくりに大いに資するものと考えております。

子どもたちにとっては、長い人生の滑走路となる、教育体系の入口あるいは根っこに当たる極めて重要な部分です。子どもたち一人一人の将来の自立へ向け、確かな力をつける出発点となります。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



Data 藤沢町は、岩手県の南端に位置する緑豊かな農山村。町の西端を東北一の大河北上川が悠々と流れ、温暖な気候を生かした農業が基幹産業。人口9,209人(12月1日現在)、面積123.15平方キロメートル。

子どもたちに 平等な教育を



「幼保一体」により幼稚園と保育園が同居する藤沢幼稚園と藤沢保育園。すべての子どもが分け隔てなく育てられている。

岩手県藤沢町。人口わずか9千人のこの町には3つの小学校と1つの中学校があります。3つの小学校を回ると、小学生と園児と一緒に遊ぶ光景が目にとまります。驚くべきことに、ここでは幼児教育施設は全て小学校の敷地内に設置されていて、幼児教育と児童教育の連携体制ができています。

幼児教育施設は、いずれも町立で幼稚園は2園、保育園は3園。つまり、保育園は全小学校に併設され、うち2つの小学校には保育園と幼稚園が同居しています。この「幼小連携」「幼保一体化」は全国初の

幼稚園と保育園の一体化教育、小学校と幼稚園・保育園の連携は、北上山地の南端にある小さな町から始まりました。

取り組みで「藤沢方式」と呼ばれ、1979年に始まりました。

「藤沢方式」の発想は、幼児教育の平等化が主眼でした。核家族化が進み、共働き世帯が増えたことで、就学前の子どもを幼稚園か保育園に預ける親が増。ここで問題となったのが、「保育時間の隔たり」と「教育内容や保育料の格差」でした。

そもそも幼稚園は学校教育法第77条で規定された教育施設であり、保育園は児童福祉法第39条で規定された福祉施設です。例えば幼稚園の保育時間は午前中、保育園は午後5時まで。教育内容は教育的色合いが強い幼稚園に対し、保育園はお遊びが中心。幼稚園に通園する子どものいる親からは「保育時間の延長」を、保育園に通園する子どもの親からは「学習面への配慮」を求める要望が相次ぎました。

そこで藤沢町は「子どもたちに園の選択や責任はない。それは大人社会の問題。全ての子どもたちに平等に教育を受けさせることが行政の使命」と「藤沢方式」を打ち出したのです。し

かし、家庭環境の違いで色分けする国の制度が施策を展開する上で大きく立ちはだかりました。国や県は断固として「幼保一体化」を認めず、折衝は2年に及んだといいます。

「制度ありきか、子どもありきか」で「初めに子どもありき」を選んだ町の方針は、マスコミからも注目され、たびたび好意的に報道されました。世論は施策の実現に大きな効果をもたらした、ついに県や国を動かしたのです。

「幼保一体化教育」とは、幼稚園と保育園が同じカリキュラムで、幼児に学習させること。町と町教委は「藤沢町幼児教育センター」を創設し、この教育を強力に推進しました。施設を小学校に併設したのは、小学校が地区の中心部にあつて通園には格好の場所であることと、やがて小学校へ入学するための準備過程としての配慮から。全ての保育園長を小学校長に委嘱しているのも、その表れです。

31年前にスタートした「幼保一体化教育」は、すっかり定着。藤沢町民は、この方式が自分たちの町で生まれた全国初のユニークな施策であることなどまったく意識せず、今日も子どもたちを幼稚園や保育園に送り出しています。

2月14日(月)から始まります。 申告相談会

申告の準備はお早めに

◎住民税・国民健康保険税の申告が必要な人

1. 今年の1月1日現在で町内に住所があり、所得税の確定申告をしていない人。
 2. 給与所得者が年金受給者で年末調整を済ませたが、昨年中に給与・年金以外の所得があった人。
 3. 所得がまったくなかった人でも、次に該当する人は住民税だけの申告が必要です。申告をしないままですと、適正な軽減措置や給付などを受けられなくなり、ますので忘れずに申告してください。
- ア. 親や子どもの税制(申告)上の「扶養控除」の対象となっていない人
- イ. 国民健康保険・介護保険に加入している人
- 国民健康保険税、介護保険料の世帯平等割額と被保険者均等割の軽減措置や高額療養(医)費、サービス費などの適正な給付(所得に応じた限度額・負担区分など)。
- ウ. 国民年金に加入している人
- 保険料の免除など。
- エ. 各種給付・手当などを受けて給している人
- 子ども手当、児童扶養手当、ひとり親家庭医療費助成、特別児童扶養手当、特別障害者手当、障害児福祉手当、重度心身障害者医療費助成、補装具費支給、自立支援医療、乳幼児及び児童医療費助成、奨学金給付など。
- オ. 町営住宅、保育所など町の施設を利用している人
- 町営住宅使用料、保育所・幼稚園保育料などの適正な使用料。

◎所得税の確定申告が必要な人

22年中に事業をしていた人、不動産所得、譲渡所得があった

人で、その年中の所得金額が基礎控除などの所得控除を超える場合や、給与所得の年末調整が済んでいない人。昨年中途退職した人。

◎申告の必要がない人

1. 税務署で確定申告をする人。
2. 給与所得者または年金受給者で、年末調整をした人。

◎申告相談に必要なもの

(税務署で申告する場合も必要です)

1. 所得関係

- ① 農業所得者
・ 収支内訳書と収支計算書など収支の分かるもの
- ② 事業所得者(農業除く)
・ 収支内訳書と収支計算書など販売と仕入れが分かるもの
- ・ 給与、賃金支払明細書

※右記の書類を持参しない場合、**申告書が作成できませんので必ず持参してください。**

- ③ 給与所得者と公的年金受給者
・ 源泉徴収票または賃金受給明細書

※確定申告には必ず源泉徴収票が必要です。

- ④ 譲渡所得者
・ 収用、買取などの証明書および売買契約書
- ・ 譲渡費用の経費明細書、領収書
- ⑤ 不動産所得者
・ 土地、家屋の賃貸借契約書または賃貸料の分かる書類
- ・ 土地改良区などへの負担金などの領収書
- ・ 固定資産税の課税明細書

2. 控除関係

- ① 障害者控除
障害者手帳、戦傷病者手帳、介護保険『障害者控除対象者認定書』
- ② 雑損控除
罹災証明書および金額の分かるもの
- ③ 医療費控除
医療費計算書、医療機関などの領収書

医療費控除を受けたい人は、あらかじめ世帯員ごとの医療費の計と、補てんされた金額(高額療養費や生命保険などからの給付金など)の合計額を計算しておいてください。

※2月1日(火)以降、税務課窓口に計算書付きの専用封筒を用意してありますので利用してください。

- ④ 社会保険料控除
各種年金保険料支払証明書、健康保険料領収書など
 - ⑤ 生命保険料控除
生命保険、個人年金支払証明書
 - ⑥ 長期損害保険料控除
地震保険料控除証明書
- ※確定申告には支払証明書・控除証明書の添付が必要です。

3. その他持参するもの

- ① 印鑑
- ② 預金通帳など

お願い

申告期間中は、各会場に職員が出向き、台帳などを持ち出します。指定会場以外の場所での申告相談は受け付けられません。また、相談会場は大変混雑し、待ち時間でご迷惑をおかけすることがあります。なお、今後も対象地区の人を最優先としますのであらかじめご了承ください。

▼問い合わせ先

税務課 賦課業務
☎(62)2113

※会津若松税務署の申告書作成会場については、ページをご覧ください。

介護保険の要介護認定を受けている皆さんへ

～障害者控除のご案内～

申告する本人または扶養親族が「障害者(特別障害者)」に該当する場合、「障害者控除」として一定金額を所得から差し引くことができます。

介護保険の要介護認定を受けている人は、障害者控除の対象になる場合がありますので、必要人は役場保健福祉課高齢者福祉業務に申請して『障害者控除対象者認定書』の交付を受け、税の申告の際に提示してください。ただし、この認定書は、税の申告にご利用いただくためのものです。障害者手帳の代わりになるものではありませんのでご注意ください。

●要介護認定に関する問い合わせ先 保健福祉課高齢者福祉業務 ☎(62)2115 (直通)

平成 22 年分 申告相談会日程と対象地区割り

月日	曜日	受付時間	会 場	対 象 地 区
2月14日	月	9:30~11:00 13:00~16:00	役場正庁	六角 明戸 水沢 千代田 砂川 新堀向
2月15日	火	9:00~11:00 13:00~15:30	↓	相名目 本町 荻窪 島田 葉山
2月16日	水	10:00~11:00 13:00~15:00	中ノ沢体育館	中ノ沢 達沢 大原 沼尻駅前 沼尻温泉 高森
2月17日	木	9:45~11:00 13:00~15:30	猪苗代町防災センター	川桁(1~11組) 川桁(12~23組)
2月18日	金	9:30~11:00 13:00~15:00	↓	白津 道下 幸野 東館 曲淵 長瀬行政区外
2月21日	月	9:45~11:00 13:00~15:30	樋ノ口多目的集会所	樋ノ口(1~6組) 白木城 小水沢 樋ノ口(7~12組) 蒲谷地 金堀 木地小屋
2月22日	火	9:30~11:00 13:00~15:00	↓	小田(1~5組) 田茂沢 市沢 吾妻行政区外 小田(6~10組) 名家 酸川野
2月23日	水	9:45~11:00 13:00~15:30	月輪地区 コミュニティーセンター	志田浜 都沢 松橋 上戸駅前 関脇 川崎 中目
2月24日	木	9:30~11:00 13:00~15:30	↓	金曲(1~5組) 夷田 湊志田 金曲(6~13組) 小平潟 上戸
2月25日	金	9:30~11:00 13:00~15:00	↓	壺下 田子沼 山潟 松橋浜
2月28日	月	9:45~11:00 13:00~15:30	翁島地区 コミュニティーセンター	三城潟 行津桜川 西真行 大在家 不動 磐根 翁島駅前 翁島行政区外
3月1日	火	9:30~11:00 13:00~15:00	↓	新在家 蟹沢・長浜 土田 西久保 東南真行 戸ノ口・三本木・金子沢
3月2日	水	9:30~11:00 13:00~16:00	役場正庁	上ノ上 打越 八千代 内野 見祢山 千貫
3月3日	木	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	新町ろ 中町 猪苗代行政区外 名古屋町 沼ノ倉 川上 天鏡台温泉
3月4日	金	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	扇田 志津 桜ヶ丘 五十軒
3月6日	日	9:00~11:00 13:00~16:00	役場正庁 「日曜申告相談会」	全地区を対象としますが、お勤めなどで平日に来られない人だけとします。※大変混み合いますので上記以外の人をご遠慮願います。
3月7日	月	9:00~11:00 13:00~16:00	役場正庁	上新町 牛沼 新町い 仁蔵 祢次
3月8日	火	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	土町 蜂屋敷 九軒町 入江
3月9日	水	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	廻谷地 長坂 半坂 堤崎
3月10日	木	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	今泉 四ツ谷 新北町 富永 釜井
3月11日	金	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	旭町 烏帽子 下館 見祢
3月14日	月	9:00~11:00 13:00~16:00	↓	古城町 渋谷 西館 伯父ヶ倉
3月15日	火	9:00~11:00 13:00~15:00	↓	百目貫 北高野 スキー場 神明町

新しい民生委員の 皆さんを紹介します。

民生委員、児童委員の委嘱状
伝達式は12月2日、役場正庁で
執り行われ、今期の民生委員・
児童委員49人に委嘱状が伝達さ
れました。

民生委員・児童委員は、厚生
労働大臣、県知事から委嘱され
るものです。社会奉仕の精神を
持ち、住民の立場に立って相談
に応じ、必要な援助活動をする
など、地域福祉の増進に努める
人たちです。

わたしたちの生活や価値観の
多様化とともに、地域社会のあ
り方も大きく変わっています。



町民の皆さんのため長年活躍した功績に対し、町長
から感謝状が贈られました

民生委員・児童委員は、地域に
暮らす皆さんの良き相談相手で
あるばかりでなく、高齢者の孤
独死、児童虐待や配偶者などか
らの暴力（ドメスティックバイ
オレンス）といった新しい社会
的課題に対して、防止や早期発
見のため、地域住民や行政との
パイプ役を果たしていきます。

このたび退任され、感謝状を
受賞した皆さんと新しい民生委
員を紹介します（敬称略）。

●厚生労働大臣感謝状受賞者
新町ろ 中村賢三（在職12年）
※在職10年以上は町自治功労者
表彰の対象

●町長感謝状（対象…在職5年
以上10年未満）および厚生労働
大臣感謝状（在職6年以上）受
賞者

沼ノ倉 遠藤好夫（在職9年）
西久保 佐賀幹雄（在職6年）
上ノ上 相原静代（在職9年）
川 野矢仁幸（在職6年）
市 沢 遠藤和代（在職9年）

地区名	氏 名	委員の別	担 当 地 区	住 所	電話番号
長 瀬	佐藤 征夫	地区担当委員	幸野、曲淵、新屋敷	猪苗代町大字川桁字新屋敷 3436-1	(66) 3011
	渡部 和子	地区担当委員	川桁	猪苗代町大字川桁字寺道北 21	(66) 2638
	土屋 俊雄	地区担当委員	川桁	猪苗代町大字川桁字長町 3554	(66) 2768
	大塚 彰	地区担当委員	白津、東館、道下	猪苗代町大字川桁字七ツ段 17	(66) 2617
	半澤 郁子	地区担当委員	内野、明戸、下館	猪苗代町大字三郷字館ノ内 8319	(66) 2002
吾	阿部 操	地区担当委員	荻窪、志津、水沢、伯父ヶ倉	猪苗代町大字三郷字下太子堂 380	(62) 3027
	遠藤 博	地区担当委員	白木城、小水沢	猪苗代町大字蚕養字西大森甲 1863-4	(64) 2580
	大桃 時夫	地区担当委員	樋ノ口	猪苗代町大字蚕養字樋ノ口乙 248	(64) 2323
	松浦 和子	地区担当委員	小田	猪苗代町大字蚕養字村中乙 2208	(64) 2621
	遠藤 茂子	地区担当委員	酸川野、名家、田茂沢	猪苗代町大字若宮字名家西甲 482	(64) 2904
妻	二瓶 康子	地区担当委員	大原、木地小屋	猪苗代町大字若宮字山田乙 220	(64) 2611
	遠藤 登美夫	地区担当委員	市沢、金堀、西高森、大島原、蒲谷地	猪苗代町大字若宮字吾妻山甲 2998-616	(64) 2195
	阿部 典子	地区担当委員	中ノ沢、達沢	猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲 2855-121	(64) 3921
	長澤 操	地区担当委員	高森、沼尻温泉、沼尻駅前	猪苗代町大字若宮字村東丙 704	(64) 3857
	阿部 重孝	主任児童委員	猪苗代地区、吾妻地区	猪苗代町大字磐里字上ノ上 238-4	(62) 4347
主任児童委員	佐藤 久榮	主任児童委員	千里地区、翁島地区	猪苗代町大字堅田字入江 641	(62) 3487
	渡部 正子	主任児童委員	長瀬地区、月輪地区	猪苗代町大字川桁字上川原 2238	(66) 2410

◆新しい民生委員は上記の通りです。困ったことがあったら相談してください。

（委員の任期は 22 年 12 月 1 日～ 25 年 11 月 30 日まで）

◆そのほか、福祉関係の問い合わせ、相談は下記まで連絡してください。

●猪苗代町役場 保健福祉課 ☎(62) 2115

●社会福祉法人 猪苗代町社会福祉協議会 ☎(62) 5168

雪と遊ぼう！スノーフェスタ in 会津レクリエーション公園

会津レクリエーション公園では、冬季の利活用
を検討する社会実験、スノーフェスタを開催しま
す。下記イベントのほか、無料体験コーナーや地
場産品販売コーナーなどを設け、皆さんの来園を
お待ちしております。

●開催日時 2月20日（日）午前9時から

●開催場所 会津レクリエーション公園
（会津若松市湊町大字赤井地内）

●開催概要

◇スポーツ雪合戦

一般の部・ジュニアの部（小学生）

参加費：一人700円（保険代・用具代含む）

1チーム7人+補欠2名

※補欠はいなくても可

開始時刻：受付 午前8時30分

開会式 午前9時

◇スノーシュー体験

参加費：一人500円（保険代含む）

レンタル代：スノーシュー1,000円、かんじき

300円（参加費別）

開始時刻：第1回午前10時 第2回午後1時

当日参加OK（スノーシュー、かんじきは数に

限りがあります）

◇雪で作るゼリー体験

参加費：一人300円

開始時刻：午前9時から随時

当日参加OK（数量限定）

●参加申込書（チラシ）

事務局に問い合わせください。また、下記のア
ドレスからダウンロードできます（パソコン用）。
[http://www.pref.fukushima.jp/aizu/kensetsu/
park/snow.html](http://www.pref.fukushima.jp/aizu/kensetsu/park/snow.html)

※チラシ裏面の申込み用紙で、事務局へ郵送、
ファクスかメールなどでお申し込みください。

●応募締め切り

雪合戦は1月31日（月）、スノーシュー体験と
雪で作るゼリー体験は2月14日（月）

●参加申し込み・問い合わせ先

会津レクリエーション公園利活用企画運営委員
会事務局（会津若松建設事務所 企画調査課
福島まで）

〒965-8501 会津若松市追手町7-5

☎(29) 5455 FAX(29) 5459

✉fukushima_hiroyuki_01@pref.fukushima.jp

地区名	氏 名	委員の別	担 当 地 区	住 所	電話番号
猪 苗 代	山内 新榮	地区担当委員	四ツ谷、古城町	猪苗代町字城南 26	(62) 5158
	長田 徳之	地区担当委員	名古屋町	猪苗代町字本町 22	(62) 3053
	越尾 弘子	地区担当委員	名古屋町	猪苗代町字裏町 429	(62) 2613
	小松 恵久子	地区担当委員	本町、旭町	猪苗代町字裏町 444-2	(62) 3036
	笹岡 正人	地区担当委員	新町い、新町ろ	猪苗代町字東町裏 4793	(62) 3940
	別府 紀元	地区担当委員	上新町、九軒町	猪苗代町字新町 4890-2	(62) 2718
	代田 悦子	地区担当委員	半坂、祢次	猪苗代町字新地 5682-3	(62) 2510
	江花 栄子	地区担当委員	土町、葉山、中町、スキー場	猪苗代町字葉山 7105-566	(62) 4457
	野澤 光子	地区担当委員	今泉、新堀向、桜ヶ丘	猪苗代町字新堀向 2543	(62) 3494
	小坂橋 言子	地区担当委員	見祢、沼ノ倉、見祢山	猪苗代町字新見祢 45	(62) 2678
	金子 一保	地区担当委員	渋谷、長坂、川上、千貫	猪苗代町字村北 6	(64) 2648
	佐藤 ミヨ	地区担当委員	神明町	猪苗代町字窪南 3704-21	(62) 3338
	山口 京子	地区担当委員	新北町	猪苗代町字沼田 3957	(62) 4310
翁 島	楠 美枝子	地区担当委員	三城潟、新在家、大在家	猪苗代町大字三ツ和字三城潟 982	(65) 2853
	川井 正栄	地区担当委員	五十軒、砂川、不動、天鏡台温泉、磐根	猪苗代町大字三ツ和字五十軒 3386	(65) 2282
	古川 稔	地区担当委員	烏帽子、釜井、東南真行、西真行	猪苗代町大字長田字北烏帽子 1015	(65) 2815
	石田 ひとみ	地区担当委員	戸ノ口・三金、西久保、蟹沢・長浜、行津桜川	猪苗代町大字磐根字行津 2061	(65) 2161
千 里	石川 加代子	地区担当委員	翁島駅前、土田	猪苗代町大字磐根字土田 3432	(65) 2491
	小林 清	地区担当委員	西館、打越、富永	猪苗代町大字千代田字富永乙 524	(62) 2373
	瀬戸 亮	地区担当委員	牛沼、相名目、入江、廻谷地、仁蔵、蜂屋敷	猪苗代町大字堅田字相名目 1671	(62) 2550
	笠間 征一	地区担当委員	千代田	猪苗代町大字千代田字千代田 6-1	(62) 2874
	小林 英男	地区担当委員	北高野、六角	猪苗代町大字千代田字村ノ内丙 213	(62) 3401
	吉野 純子	地区担当委員	扇田	猪苗代町大字千代田字扇田 12-9	(62) 4884
	青木 秀子	地区担当委員	扇田	猪苗代町大字千代田字扇田 12-1	(62) 3100
	星野 あけみ	地区担当委員	上ノ上	猪苗代町大字磐里字上ノ上 231-1	(65) 2943
	小檜山 ナミ子	地区担当委員	島田、堤崎、百目貫	猪苗代町大字磐里字島田 1891	(62) 3073
	柳原 律子	地区担当委員	八千代	猪苗代町字芦原 73-3	(63) 0770
月 輪	佐藤 美晴	地区担当委員	上戸、上戸駅前、湊志田、壺下	猪苗代町大字壺楊字前田 208	(66) 3440
	安部 洋子	地区担当委員	山潟、田子沼	猪苗代町大字山潟字山潟 2457	(66) 3738
	渡部 史朗	地区担当委員	金曲、夷田、川崎	猪苗代町大字金田字道南 298	(66) 3536
	渡部 サタ	地区担当委員	松橋、中目、小平潟、松橋浜	猪苗代町大字中小松字松橋 38	(66) 3340
	六角 富美子	地区担当委員	関脇、都沢、志田浜	猪苗代町大字関都字関都 1142	(66) 2507

E

lementary school



翁島小が環境保全でW受賞

翁島小学校の児童代表らは12月3日、第9回みんゆう環境賞と環境省自然環境局長賞の受賞報告のため、町役場を訪れました。

みんゆう環境賞は11月15日、10年前からアサザの移植などに取り組んでいる実績が認められての受賞。環境省自然環境局長賞は同29日、第45回全国野生生物保護実績発表大会で「水質日本一の猪苗代湖を取り戻すために～水生生物のすみやすい環境をつくろう～」をテーマにした発表に対して贈られたものです。

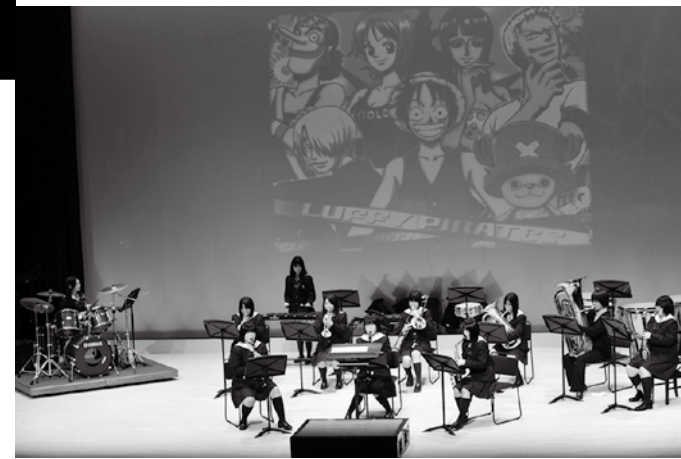
受賞報告には橋本千賀子校長、原裕司教諭、佐藤亜樹さん(5年)、遠藤滉介さん(同)が訪れました。橋本校長の受賞報告の後、佐藤さんが活動の取り組みなどについて説明、遠藤さんが活動の感想などを話しました。説明を受けた津金町長は「皆さんの活動や頑張りを誇りに思う」と受賞をたたえました。



写真上 左から土屋教育長、津金町長、橋本校長、佐藤さん、遠藤さん、原教諭。児童の皆さんおめでとうございます。写真下 「クリーン作戦はごみ拾いが大変でした」と話した遠藤さん(右)と佐藤さん

H

igh school



吹奏楽部のメロディー響く

2010 いなわしろ音楽祭は12月11日、学びいなどで開催され、猪高吹奏楽部11人が出場し見事な演奏を披露しました。「コレオグラフィー」「ウィーアー! ワンピースオープニングテーマ」「宇宙戦艦ヤマト」など3曲を披露した後は、フィナーレの合同演奏にも参加し、最後まで会場を沸かせました。

伊藤朱夏部長は「吹奏楽団や自衛隊の皆さんと一緒に演奏できて楽しかったです。たくさんの人に猪高の演奏を聞いてもらえてうれしかったし、手拍子を打って楽しんでいる観客の姿を見て、今まで音楽をやってきて良かったと思いました」と音楽祭の感想を述べました。

顧問の岩間真由美教諭は「それぞれが自分の役割を果たしながら演奏に臨み、頼もしかった。観客に向かって、一生懸命自分たちの音を出そうとしている姿が印象的でした」と話しました。



写真上 3曲を演奏した吹奏楽部の部員11人
写真下 「少人数なので楽器編成やバランスなどが難しかったが、仲良くやれて楽しかった」と3年間を振り返った伊藤さん

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO



町内の全中学生に本を寄贈

猪苗代の偉人を考える会(江花俊和会長)は12月3日、同会が作製した冊子「保科正之の生涯と土津神社」を町内3中学校の生徒460人に贈呈しました。

冊子は、来年生誕400年を迎える正之公を顕彰し10月に実施されたイベントに合わせて作製したもので、正之公の生涯や優れた功績などが約80ページにまとめて紹介されています。

町役場で開催された贈呈式では、江花会長が「長い人生の中できっと役に立つので、ぜひ読んでほしい」と話し、猪苗代中3年の中村耕子さん、吾妻中2年の神末由華さん、東中2年の古川公望さんの3人にそれぞれ冊子を手渡しました。

生徒を代表して、神さんが「会津に住んでいても正之公のことを知らない人は多いと思う。わたしたちはこの本を読んで、もっと正之公への理解を深めたいと思います」と感謝の言葉を述べました。



写真上 冊子を受け取った各校の生徒代表。左から古川さん、神さん、中村さんと江花会長。この冊子は教職員や図書室にも贈られました
写真下 中村さんに冊子を手渡す江花会長



おいしいもちができました

12月に入り、町内各保育所では恒例のもちつき会が開かれました。

猪苗代保育所のもちつき会は12月3日、同保育所で開かれ、子どもたちの「よいしょー、よいしょー」という元気なかけ声が保育所中に響き渡りました。

つきたてのモチは、汁モチ、アーモンドモチと納豆モチの3種類に分けられ、子どもたちのお昼ごはんになりました。

表紙に登場した長谷川梨央くんは「きねは重かったけど、モチを作るのは楽しかった」、吉田柚月ちゃんは「梨央くんと一緒にもちつきができて楽しかった」と感想を話し、「アーモンドモチが一番おいしかったね」と2人で笑いました。

きねを持ってない小さな子どもたちも、お兄ちゃん、お姉ちゃんのもちつきを笑顔で見つめ、大きな声援を送っていました。



写真上 「5人そろって○○○ジャー」ではないですが、みんなで協力してもちつきに挑戦するうめ組の男の子たち
写真下 うすにくっつくもちに悪戦苦闘する屋部瑞生くん(左)と大森陽南ちゃん(右)

J

unior high school

N

ursery school



猪苗代の米の販売力強化へ

土屋さんがコンクールで金賞受賞



表彰状を手にする土屋さん

国内最大のお米のコンクール「第12回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」は11月20、21の両日、島根県松江市で開かれ、会津有機米研究会(小林重希会長)の土屋睦彦さん(百目貫)のひとめぼれが、地域部門の金賞を受賞しました。

2,800を超える応募の中から見事金賞に選ばれた土屋さんは「研修や話し合いなど、米づくりのスキルアップを目指して研究会で活動してきた成果が出た。今回の受賞はまず第一歩。来年は総合部門で金賞を受賞して猪苗代の米をPRし、販売力の強化につなげたい」と抱負を述べました。

猪苗代湖にコイの稚魚放流

翁島小卒業生が水環境保全を誓う



一斉にコイの稚魚を放流する参加者ら

翁島小学校の昭和37年度卒業生(同級生92人)は12月4日、猪苗代湖の長浜でコイの稚魚約3,000匹を放流しました。

還暦祝いを兼ねた同級会を記念して、生まれ育った古里の湖の水環境と生態系を守ろうと幹事有志が企画したもので、同級会出席者から約30人が参加。猪苗代・秋元非出資漁業協同組合の渡部英一組合長立ち会いの下、一斉に稚魚を放しました。

幹事長の古川剛さん(北烏帽子)は「初めての試みだが、60歳の節目にみんなの心に残る思い出ができたと思う」と笑顔で話しました。

心を潤す音色に酔いしれる

学びいなでいなわしろ音楽祭開催



猪苗代吹奏楽団と猪苗代高校吹奏楽委員会の演奏

2010いなわしろ音楽祭は12月11日、学びいなで開かれました。猪苗代吹奏楽団のほか、福島県ばんだい荘あおば、猪苗代中学校3年2組、猪苗代高校吹奏楽部、陸上自衛隊郡山駐屯地音楽隊や千里幼稚園など5団体が参加。また、会津磐梯山全国大会グランドチャンピオンの馬場ゆかりさん(会津若松市)も参加して、民謡や津軽三味線などを披露しました。

吹奏楽はもちろん、太鼓や合唱などさまざまな音色に包まれた学びいな大ホールは立ち見が出るほどの大盛況。アンコールの演奏が終わると、会場から割れんばかりの拍手が贈られました。

署員らが火災予防を訴える

子どもたちと街頭啓発活動を実施



買い物客に歌で火災予防を呼び掛けた園児ら

猪苗代消防署の街頭啓発活動は12月13日、町内のヨークベニマル猪苗代店とリオンドール猪苗代店で実施されました。

活動には消防署員のほか町消防団員、町婦人消防隊員など約50人が参加。買い物客に防火を呼び掛けるチラシやティッシュなどを配ったほか、猪苗代保育所の子どもたちが拍子木に合わせて幼年消防の歌を披露し、火災予防を訴えました。

署員らは「自らの命は自らで守る」という意識の向上を図るとともに、既存住宅への住宅用火災警報器の早期設置を促進しようと真剣な表情で呼び掛けました。

商店街を明るく照らす光に

町中央商店街にイルミネーション



こばほん前で点灯されたイルミネーション

町内の商工関係団体などによるイルミネーション点灯式は12月17日、町の駅「こばほん」前で開催されました。

町商工会、まちづくり猪苗代や町観光協会などが中央商店街の活性化につなげようと初めて開催したもので、同所のほか、六角橋、工房ポプリや商店街の無料駐車場などに大型のイルミネーションを設置、街路灯22基にも電飾を設置しました。

式では、一ノ瀬正一町商工会会長代行が「猪苗代の冬の風物詩として定着してほしい」とあいさつした後、関係者がスイッチを入れてイルミネーションを点灯させました。

12年後の自分にメッセージ

小学6年生がタイムカプセル埋設



思い出の品などを入れた宝箱に鍵をかける各校の児童

猪苗代の子供たちの夢を応援する会(鈴木長治代表)が主催する第4回「猪苗代“えと”タイムカプセル」埋設式は12月17日、ホテルリステル猪苗代内の猪苗代ハーブ園で開催され、町内各小学校から6年生約130人が参加しました。

参加した児童を代表して、千里小学校6年の小林幹さんと星野光恵さんが「12年後の自分に手紙を書きました。みんなで宝箱を開ける日を楽しみに12年間頑張ります」と発表。その後、宝箱に鍵を掛け、鍵を入れたタイムカプセルを来年のえとであるウサギの彫刻の下に埋めました。

「百薬の長」とはいへど…

飲み過ぎに注意

年末年始はお酒を飲む機会が増える時期ですが、みなさんはいかがでしょうか。楽しくて、ついつい食べ過ぎ、飲み過ぎいていませんか。

お酒は、古くから「百薬の長」と呼ばれてきましたが、「万の病は酒よりこそ起れ」（徒然草）とも言われました。ひとつ間違えると「命を削る毒の水」にもなりかねません。正しい知識を身につけて、お酒と上手に付きあうていきましょう。

そう言われても、「わかつちやいるけど、やめられない」のがお酒の魔力。お酒はストレスを解消したり、食欲を増進したり、生活習慣病の予防などに効果があると言われています。しかし、よい効果はあくまでも「適量」のお酒を飲んでいる場合です。

飲みすぎてしまうと、体への悪い影響が多くなってしまうます。例えば、大量にお酒を飲む人には、肝臓や膵臓の病気が多いと言われています。また、アルコール度数の高いお酒は、少ない量でも酔いがまわりやすく、



ビール ……中瓶 1本 (500^{ミリリットル})
日本酒 …………… 1合 (180^{ミリリットル})
焼酎 35度 ……… 0.4合 (70^{ミリリットル})
ワイン グラス 1杯 (200^{ミリリットル})
ウイスキー ダブル 1杯 (60^{ミリリットル})

ただし、個人差があるので、お酒に弱い人や女性は、お酒の強い人に比べて少ない量で酔ってしまいます。お酒の強い人であっても、体格、年齢や体調によつて酔い具合が違いますので注意が必要です。

では、お酒とうまく付きあうためにはどうすればよいのか、そのポイントをご紹介します。

まず、ウイスキーや焼酎などアルコール度数の高いお酒は水割り、ソーダ割りやお湯割りなどにして、薄めてゆっくり飲みましょう。アルコール量を少なくすることにもつながります。

空腹で飲むと吸収が早く悪酔いしたり、お酒だけ飲んで何も食べないと栄養が偏ったりしま

▼問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり業務
☎(62) 2115



飲み過ぎ・食べ過ぎに注意して、楽しい新年会シーズンをお過ごしください

す。お酒を飲むときは刺身、焼き魚、焼き鳥、豆腐や野菜など低エネルギーでタンパク質とビタミンB群が豊富なおつまみを食べましょう。

お酒には、利尿作用があります。お酒を飲むと、その作用で水分が尿として出てしまい、体は脱水状態になりがちです。お酒をたくさん飲んでしまったという時は、帰宅してから水分補給を十分にしてください。

お酒を飲むときは、飲み過ぎに気をつけて、家族や仲間と上手に楽しみましょう。



大好きなパパとママと一緒に笑顔の洋輝くん

「まずは元気に育ってほしい。それが一番」パパとママは、洋輝くんを見つめながら話します

安藤 洋輝^{ひろき}くん

平成 22 年 1 月生まれ
～八千代
剛さん・祐理子さん夫婦の長男

町民の皆さんが、どこかで見たような気がするパパとママ。実はこのお二人、昨年の「おシンさんの嫁入り」で、新郎新婦役として参加してくれた安藤さん夫妻です。

昨年 1 月に生まれた長男の洋輝くんは、最近おもちゃを使った一人遊びが上手になってきました。テレビのコマーシャルが大好きで、「番組よりもコマーシャルの時間のほうがテレビを見ている」とパパとママは笑います。

日中はママと過ごしている洋輝くんですが、お風呂に入るのはパパの日課だそうです。

「猪苗代の自然の中でのびのびと育って、保育所では友だちをいっぱい増やしてほしいですね」パパとママは笑顔で話しました。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。
☎(62) 2111

サークル紹介

猪苗代の偉人を考える会は、室町時代の連歌師・猪苗代兼載、会津藩祖・保科正之、世界的医学者・野口英世の本町が誇る三偉人を顕彰し、町内外に広めることを目的として昨年の 4 月に発足しました。現在 20 人の会員で活動しています。

昨年は、猪苗代兼載没後 500 年記念顕彰事業を後援。保科正之公生誕 400 年を来年に控え、ことしの 3 月には長野県伊那市高遠町を訪問。正之公の足跡をたどりながら伊那市との交流を深めました。7 月には土津神社の案内人講座を、10 月には顕彰事業を実施するとともに正之公の冊子を作製するなど精力的に活動しています。

江花会長は「これからも本町が誇る三偉人の顕彰に努め、町の活性化に寄与したい」と抱負を語りました。

※このコーナーでは、活動を P R したい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。☎(62) 2111

猪苗代の偉人を考える会

(江花 俊和^{としかず}会長)



(写真左) 町内の全中学生に「保科正之の生涯と土津神社」を寄贈
(写真右) 「会員も募集しています」と話した江花会長

10 月に開催した保科正之公の顕彰事業の様子



体験交流館ニュース

■第9回心の手紙コンテスト ～母から子への手紙コンテスト表彰式～

「母から子への手紙コンテスト」表彰式は12月5日、学びいなホールで挙行政され、町絆づくり実行委員会の八子弥寿男委員長あいさつの後、大賞の勝又千寿さん(静岡県)ら入賞者21人に表彰状や記念品などが贈呈されました。

最終選考委員長で芥川賞作家の玄侑宗久さん(三春町)は、受賞作全体を通して『信じて見守る』という母の強い気持ちを感じた」と講評。同委員でエッセイストの大石邦子さん(会津美里町)も「適切な距離を置きながら子に愛を注ぐ『遠いまなざし』のような気持ちが大切だと感じた」と述べました。

会場には受賞者のほか、今回の審

査にかかわった町内のお母さんたちも駆け付け、大賞を受賞した勝又さんの朗読にじっと耳を傾けました。

この後、最終選考委員で講談師でもある末利光さん(小川正子記念館・春日居郷土館名誉館長)が「素顔の野口英世(海外編)」と題して講談を披露、会場を沸かせました。

表彰式終了後には受賞者、関係者を交えた懇親会も開かれ、一次選考会を担当したお母さん委員会のおもてなし料理や絆づくり実行委員の涌井靖さんの手打ち蕎麦などが振る舞われました。

応募総数1,240作品の中から、見事大賞に選ばれた勝又千寿さん(静岡県)の作品を紹介します。



八子委員長から表彰を受ける勝又さん



講談を披露し会場を沸かせた末利光さん



懇親会で親睦を深める受賞者と関係者ら

※「母から子への手紙」入賞作品は、町ホームページでご覧になれます。

大賞作品

勝又千寿(静岡県)

この前の日曜日の事、ママは一生忘れないよ。いつもの公園でジャングルジムから下りれなくなつて泣き出した君。でも、足の悪いママは、下から見てる事しかできなくて、すごく悔しくて悲しかった。そしたら、君は、一段一段自分の足で下りて、最後の七段で、「ママが見てくれたから頑張ったよ」って涙と鼻水でごっちゃんになった顔でママの胸に飛び込んで来た。ママ、はっとして涙が出たんだ。だって、ずっと悩んでたから。十分に遊んであげられないママは君にとって必要な存在なの？って。自信がなかったママに、「そこにいるだけでいいよ」って教えてくれたのは四歳の君なんだよ。これからもママは少し離れたこのベンチで君を見ているね。もどかしく思える距離だって愛しい長さだつて思えるの。それにね、ここからだ、君の周りの風景も全部がよく見渡せるんだ。



■いなわしろふる里かるた大会開催

第1回いなわしろふる里かるた大会は12月7日、学びいなで生き粋セミナーとかるた名勝史跡探訪講座の受講者を対象に開催されました。かるた制作時から協力を頂いた鈴木清孝さんからかるたの絵札と読み札の解説、鈴木邦子さんから読み札の読み上げの指導を受け、受講者らが熱心に競技に取り組みました。結果は以下のとおりです。

(個人戦)第1位 渡辺アイ子 第2位 関和公子 第3位 鷲尾房子、六角智恵子 (団体戦)優勝 稲グループ 準優勝 白百合グループ

猪苗代町体験交流館からのお知らせ

■おいしく楽しくクッキング

身近な食材でできる家庭料理をテーマに、料理教室を開催します。参加を希望する人は1月14日(金)までに、学びいなに申し込んでください。

託児室を準備できますので、必要な人は申し込みのときに申し出てください。

●期日と内容(全4回)

①1月26日(水)
地元の素材でつくるフルコース

②2月4日(金)
冬野菜でポッカポカ韓国家庭料理

③2月15日(火)
地産地消の勧めと食育を考える

④3月4日(金)
お家で中華かんたん家庭料理

●時間：午前9時30分～午後0時30分

●場所：学びいな ●参加費：1回700円程度



■会津藩主松平家墓所「土津神社」と 周辺を伝えるコーナーを設置

ふるさと歴史館では、上記コーナーを設置します。猪苗代を代表する歴史上の人物。その人物像を探ってみてはいかがでしょうか。

●期間：1月5日(水)～3月31日(木)

●場所：ふるさと歴史館2階 ロビー

●入場無料

※写真誤りのお詫びについて

広報猪苗代12月号中の学びの泉No.166で紹介した編み物教室の写真に誤りがありました。記事中で使用した写真は、古川さんの編み物教室とは違う、別の編み物グループの皆さんの作品でした。心からお詫びいたします。

教育委員会コラム

～第九回～

法正(ほうしやう)厩遺跡(うしやういせき)（磐城自動車道磐梯山サービスエリアのあたり）からの出土品約八百点が、国の重要文化財に指定されたのは、一昨年の七月だった。

その出土品は現在、県文化センター白河館(まほろん)に収蔵されている。私も見たが、出土品の多くは、東北北部、新潟県山形県や秋田県などから伝わって来たもので、縄文のころから人々の交流があったことが分り興味をそそられた。そして、各種土器などに混じり、硬玉製大珠と呼ばれるものがあつた。硬玉とは言うまでもなくヒスイのことで、これももちろん福島県内からは採れない。

富山県と新潟県の境あたりを流れ、日本海へと注ぐ姫川の上流が古代におけるヒスイの産地だったことが確認されている。いわゆる勾玉という緑色の美しいものだが、この硬い石にどうやって「穴」を開けたのか、長年の疑問であつた。

数年前に発行された雑誌に載っていた某先生の説によると、篠竹の錐を火起こしの仕掛けのようなものに取り付け、ヒスイと同じ硬度の砂と水をかけながら錐を回転させ、2時間くらいで開けたらしい。縄文時代は時間の流れがゆっくりで、大変な時間をかけて開けたのかと思っていたが、そうではなかったようだ。縄文時代のハイテクノロジである、縄文人の知能も現代人と変わらなかったようである。

幼稚園

23年度の幼稚園入園児を募集します

町では、23年度の幼稚園入園児を次のとおり募集します。

▼対象幼児

町内に住所がある満4歳児・5歳児

○5歳児（平成17年4月2日～18年4月1日生）

○4歳児（平成18年4月2日～19年4月1日生）

▼募集定員

・猪苗代幼稚園 140人

・千里幼稚園 105人

・翁島幼稚園、みどり幼稚園、長瀬幼稚園、吾妻幼稚園はそれぞれ 70人

▼受付期間

23年1月11日（火）～31日（月）

▼申し込み方法

各幼稚園に備え付けの入園願書に必要事項を記入の上、希望する幼稚園に申し込んでください。

▼幼稚園保育料

月額 5600円

▼その他

保育料のほかに保育用品代や教材費などの経費が必要となります。

◎預かり保育について

23年度の預かり保育を猪苗代幼稚園と千里幼稚園で実施します。希望する人は、預かり保育申込書に必要事項を記入の上、申し込んでください。

なお、通常保育料のほかに預かり保育料がかかります。

▼預かり保育料

月額 5000円

▼預かり保育を実施する日

日曜日・祝祭日・8月13日～16日・12月29日～翌年1月4日を除く日。

▼預かり保育を実施する日

1 通常の幼稚園教育が行われている日

▼その他

午前7時30分～午前8時30分 幼稚園の終了後 終了時～午後6時

2 土曜日、学年始休業日、夏季休業日、冬季休業日、学年末休業日の午前7時30分～午後6時

▼問い合わせ先

教育総務課教育総務業務

☎（62）5677

または各幼稚園

猪苗代幼稚園

☎（62）3234

千里幼稚園

☎（65）2291

児童

放課後児童クラブの登録児童を募集

放課後の生活指導や長期休業中の余暇指導をする児童クラブに、来年度の登録を希望する児童を募集します。

▼対象児童

①町内小学校に在籍する1年生から6年生の児童

②留守家庭の児童

※ただし、右記の要件を満たしても、希望者多数の場合は、1年生から3年生までの低学年児童および通学区域に事情のある児童を優先します。

▼開設場所と定員

（別表のとおり）

▼開設時間

①月曜から金曜の平日

放課後～午後6時

②土曜日

午前8時～午後6時

③学校長期休業中

午前8時～午後6時

④学校振替休日（運動会などでの振替休日）

午前8時～午後6時

▼指導内容

生活指導、余暇指導

▼経費



「よいしょー」
（猪苗代保育所 もちつき）

保育所

23年度の保育所入所児を募集します

町では、23年度の保育所入所希望児を次のとおり募集します。

▼入所対象者

町内に住所があり、保護者や同居の親族が働いているなどの理由で、保育ができない児童。ただし、その家庭でどなたかが保育できる場合は除きます。

・常時働いている場合（家庭外労働、自営業、内職など）・母親の出産の前後、病气、負傷、または心身に障害がある

・家庭内に長期にわたる病人などがいて、いつもその看護に当たっている場合

・火災、風水害、地震などにより家屋などの復旧にあたっている間

・そのほか保育ができない場合（就学、父母の不在、求職中）

※求職中の人は、2カ月間だけ入所できます。2カ月間で仕事が決まれば延長可能です。決まらない場合は退所となります。

▼受付期間

1月5日（水）～31日（月）

▼募集定員

①猪苗代保育所

80人（うち生後6カ月以上1歳未満児3人）

②川桁保育所

45人（うち生後6カ月以上1歳未満児3人）

③中の沢保育所

35人（うち生後6カ月以上1歳未満児3人）

▼年齢の起算

23年4月1日現在の満年齢。

▼申し込み方法

各保育所に用意してある申込書に必要事項を記入の上、必要な書類を添付して最寄りの保育所に申し込んでください。

▼申し込みに必要な書類

①保育所入所申込書

②22年分源泉徴収票（年末調整済みのもの、父母分）か22年分確定申告書（控）

③父母の在職証明書

④課税台帳閲覧同意書

※別途書類を提出してもらう場合があります。

▼開所日

日曜日・祝祭日・1月2日～4日・12月29日～31日を除く日

（別表）

①負担金 月額2000円（減免規定があります）

②その他

教材費 月額1000円

傷害保険料 月額2000円程度

おやつ代金 実費分

▼受付期間と方法

23年1月11日（火）～31日（月）

保護者の希望による登録制です。

利用申請書に記入の上、各児童クラブ、または保健福祉課へ申し込んでください。

児童クラブ名	開設場所	定員
猪苗代第二児童クラブ	猪苗代小学校敷地内	40人程度
千里児童クラブ	千里地区コミュニティセンター	40人程度
吾妻児童クラブ	吾妻小学校内いこいのスペース	40人程度
緑児童クラブ	月輪地区コミュニティセンター	40人程度
長瀬児童クラブ	旧長瀬連絡所	40人程度
翁島児童クラブ	翁島地区コミュニティセンター	40人程度

生活

地籍図・字限図の閲覧を休止します

22年中の土地の分筆や合筆などの土地異動分を修正するため、次の期間は地籍図と字限図が閲覧できなくなります。

▼休止期間

2月1日（火）～3月25日（金）

なお、福島地方支局若松支局では閲覧できます。

▼問い合わせ先

税務課賦課業務

☎（62）2113

募集

放課後児童クラブの指導員を募集

児童に放課後の生活指導や長期休業中の余暇指導をする児童クラブの、来年度の指導員を募集します。

▼募集人員

指導員 18人

補助指導員 若干名(補助指導員は、指導員が休暇を取る場合の代替として勤務します)

▼資格要件

心身ともに健康で、23年4月1日現在で65歳以下の、次のいずれかに該当する成人

①教諭、保育士の資格を持つ人
②児童健全育成に熱意のある人

▼勤務条件

①月曜から金曜の平日

午後1時～午後6時15分

②土曜日

午前8時～午後6時15分

③長期休業中

午前8時～午後6時15分

④学校振替休日(運動会などでの振替休日)

午前8時～午後6時15分

⑤休日

日曜、祝日

※勤務時間は変更することがあります。

ります。

▼勤務内容

児童の生活指導、余暇指導、クラブの庶務会計

▼勤務場所

前ページの別表のとおり

▼応募手続き

町指定の履歴書に写真貼付の上、2月10日(木)まで、保健福祉課に応募してください。履歴書は保健福祉課に備え付けてあります。

▼問い合わせ先

保健福祉課社会福祉業務

☎(62) 2115

町・小野育英会奨学生を募集します

町と小野育英会では、23年度の奨学生を募集します。対象者は、町内に在住し、この4月から高等学校に進学する人です。

▼奨学資金の額

両奨学資金とも月額 1万円

▼貸与期間 23年4月から26年3月までの3年間

▼願書提出期限

3月4日(金)

▼出願方法

・奨学生願書と奨学生推薦調書を、在学する学校経由で教育総務課に提出してください。
・奨学生願書には、連帯保証人の署名が必要です。

相談

・連帯保証人は、本人の父、母、兄弟またはこれに代わる人で、奨学資金返還の義務を負える人に限ります。

▼問い合わせ先

教育委員会教育総務課

☎(62) 5677

人権擁護・行政相談委員合同相談会

町では、次の日程で人権擁護委員と行政相談委員の合同相談会を開催します。人権問題や法律についてこの機会にぜひご相談ください。

▼開催日時

1月18日(火)

午前10時から午後3時まで

▼場所 町役場3階 日本間

▼その他 相談無料・秘密厳守

▼問い合わせ先

総務課 秘書広報業務

☎(62) 2111

掲示板

告示

・第146号「公売通知書の公示送達について」

(税務課収納業務)

・第147号「配当計算書の公示送達について」

(税務課収納業務)

・第148号「平成22年第7回定例議会招集」

(総務課行政管理業務)

・第149号「充当通知書の公示送達について」

(税務課収納業務)

・第150号「延滞金督促状の公示送達について」

(税務課収納業務)

・第151号「国民健康保険被保険者証無効告示」

(町民生活課国保年金業務)

・第152号「不動産等の最高価額申込者決定通知書の公示送達について」(税務課収納業務)

(税務課収納業務)

・第62号「農用地利用集積計画について」

(農業委員会農地業務)

・第63号「不動産等の最高価額申込者決定の公告」

(税務課収納業務)

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

※告示・公告された内容については、役場前掲示板をご覧ください。

粗大ごみの搬入受付方法が変わります

町内から排出される粗大ごみの処分については、毎月粗大ごみの日を指定し、旧衛生センターで受け入れをしています。

13年4月1日に野焼き禁止の法律が施行されて以来、金属以外の粗大ごみの排出量は21年度までの9年間で倍増し、排出量の増加に伴い処分経費も増加しています。排出量増加の一因として、粗大ごみ以外の廃棄物の持ち込み、事業系一般廃棄物の持ち込みや他市町村からの持ち込みが考えられます。

そのため、これまで口頭の申し出で粗大ごみを受入れていましたが、町内から発生した家庭系の粗大ごみであるかを確認するため、搬入受付票の提出と搬入者の本人確認をお願いすることにしましたので、ご協力をお願いいたします。

タイヤ、タイヤホイールは、排出者の責任と負担の公平性を考慮して、粗大ごみとしての受け入れを取り止めます。処分依頼は販売店などをお願いします。

1. 搬入受付方法

1) 旧衛生センターに粗大ごみを持ち込む人は、事前に「粗大ごみ搬入受付票」に必要事項を記入の上、搬入時に係員に提出してください。

「粗大ごみ搬入受付票」は事前に区長経由で1部を配布します。以後は、役場町民生活課および粗大ごみ回収日に旧衛生センターで配布しますので希望する人は申し出てください。

2) 提出の際、本人確認のため運転免許証などの提示をお願いします。

3) 他の人に運搬を依頼する場合は、ごみ排出者本人が同乗するか、同乗できない場合は搬入受付票に依頼者(排出者)の氏名、住所、電話番号を必ず記入してください。

2. 実施時期 23年4月の粗大ごみ受入日から

3. 粗大ごみの搬入できる日、時間帯

1) 搬入できる日 町が指定する日
ごみリサイクルカレンダーで確認してください。

2) 搬入できる時間帯
午前9時～正午、午後1時～午後4時

4. 搬入時の注意点(お願い)

1) つぎの物は搬入できません。

①猪苗代町以外から排出された廃棄物

②町指定のごみ袋に入る家庭のごみ

③重量50kg以上の物、長さ180cm以上の物(木類以外)、直径(角材は対角)15cm以上または長さ100cm以上の木類

④家電リサイクル対象品(テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)パソコン、バイク、自動車部品、タイヤ、タイヤホイール、スクラップ、消火器、耐火金庫、ガレキ、コンクリート類、ブロック、残土

※タイヤとタイヤホイールは、23年4月から粗大ごみとして受け入れできなくなりますので、販売店や廃棄物収集運搬業者に引き取りを依頼(有料)するか、ご自分でホイールを外して、会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターに直接持ち込んでください(町の証明書があれば無料)。

⑤事業活動に伴い発生するごみ、農機具、農業資材、建築廃材

⑥産業廃棄物

⑦有害物質を含む物、危険性のある物、引火性のある物、著しく悪臭を発する物、特別管理一般廃棄物、その他処理に支障があると町が認める物は搬入できません。

2) 搬入に際しては、注意事項および係員の指示を守ってください。

3) 上記のことを守らない場合は搬入をお断りすることがあります。

5. その他

1) ご自分で運搬できない場合や町が引き取らないごみの処理については、ごみ処理業者に処理を依頼してください(有料)

2) 引越しなどで一度に大量の家庭ごみを排出する場合、町の証明を受けて自ら会津若松市にある会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターに直接持ち込むことができますので、町民生活課に問い合わせてください。

●問い合わせ先 町民生活課 ☎(62) 2114